文化財から見る岩見沢

文化財は歴史の中で生まれ、今日まで大切に受け継がれてきた貴重な宝で、地域の成り立ちや、文化を知る上で重要なものです。

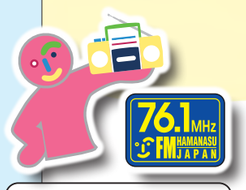
今月は、そんな歴史とロマンが詰まった〝岩見沢市指定文化財〟を紹介します。

問合先　生涯教育課文化・スポーツ振興係　☎35-5129

岩見沢の〝指定文化財〟

文化財の中には、国が指定するものや、都道府県や市町村が指定するものがあります。岩見沢市でも、特に文化的価値の高いものを市の文化財に指定し、保存・活用しています。

文化財は、建物・美術工芸品など形のある〝有形文化財〟や、音楽・踊りなど形のない〝無形文化財〟などに分類されます。現在、市には六つの有形文化財と、二つの無形文化財があります。



市職員が出演して紹介します
11月13日㈮
午後5時40分

阿弥陀如来立像

平成3年10月1日指定

成就山大願寺（大願町131）
☎25-0625

大願寺の本尊で、鎌倉時代中期に作られた仏像です。胎内に納められた麻袋の文字や修復の跡から、江戸時代に大規模な補修を行ったと推測されています。大願寺が建てられた際に、総代長であった星野松太郎さんが私財を寄付したことで、京都の本山から本像を受け取りました。

見学したい方は、成就山大願寺へ連絡してください。

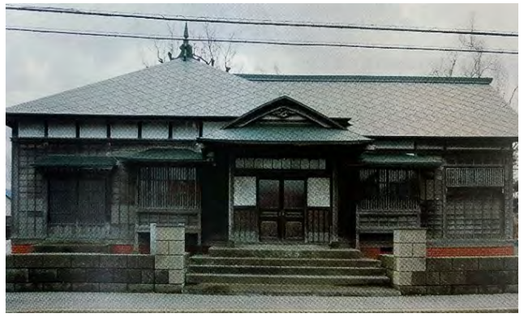
3/6

旧國兼家住宅

昭和53年12月8日指定

北本町東1

大正初期に、岩見沢で実業家として活躍した竹野繁次郎さんの自宅として建てられ、第5代岩見沢市長の国兼孝治さんの父である治雄さんに引き継がれました。



道央では珍しい、日本海側の雪が多い地域によく見られる土縁（どえん）つきの縁側が特徴で、山形県出身の竹野さんが故郷の建築様式を取り入れたと考えられます。

庭園と外観は自由に見学できます。内部を見学したい方は、生涯教育課文化・スポーツ振興係へ

4/6

岩見沢郷土科学館
マスコットキャラクター

岩見沢郷土科学館にある
指定文化財は次のページへ

一の沢水源池取水塔

昭和53年12月8日指定

三笠市萱野

明治41年に完成した上水道施設の取水塔です。明治の岩見沢町市街地は水不足に悩まされ、衛生や防火上の懸念も強まりました。そこで岩見沢町の年間予算の5倍を投じて一の沢の貯水池から市街地への上水道工事に着手し、明治41年に竣工しました。貯水池と取水塔を持つ上水道施設の建設は、道内では初めてのことでした。

安全のため、現地への立ち入りはできません。岩見沢郷土科学館にパネルの展示があります。

1/6

巖見澤紀碑

昭和43年11月3日指定

岩見沢神社境内（12西1）

岩見沢村会議員だった石黒長平さんが、明治38年に建てたもので、開村から20年を迎えた岩見沢村の発展の様子が刻まれた石碑です。

碑文の始まりには〝岩見澤は浴澤の轉稱なり〟、の一文があり、岩見沢の地名の由来が、湯を浴びる沢〝ゆあみ沢〟とされる説の根拠となっています。

岩見沢郷土科学館で碑文の原本を見ることができます。

2/6

岩見沢の自然や歴史に関する資料を数多く収蔵している郷土科学館。２階には、有形文化財の〝石器群〟や無形文化財、各地にある有形文化財にまつわる展示があります。

問合先　郷土科学館（いわみざわ公園内）
☎ 23-7170

無形文化財〝砺波獅子舞〟展示

各文化財展示

石器群　昭和43年11月3日指定

市内の遺跡で見つかった、後期旧石器時代から縄文時代中期の石器です。旧石器６点、まんじゅう石３点、丸のみ形石器４点を合わせて〝石器群〟として指定しています。

5/6

旧石器（栗沢町由良Ａ遺跡、由良Ｆ遺跡出土）

後期旧石器時代に作られたとされる石器です。捕まえた動物の毛皮についた脂を落とす道具と、骨や角を加工する道具と考えられています。

まんじゅう石（栗沢町加茂川遺跡出土）

約６千年前の縄文時代前期に使われた円盤状の石器で、たたき割ったり、すりつぶしたりする道具と似ていますが、具体的な使い道は分かっていません。

丸のみ形石器（栗沢町由良Ｃ遺跡出土）

約４千年前の縄文時代中期に使われたとされる細長い石器で、木材で道具を作る際に溝を彫ったり曲面を作ったりする工具として使われたと考えられています。

辻村家ガラス乾板写真及び関連資料　令和７年12月24日指定　NEW

明治30年代後半から昭和10年代前半にかけて撮影され、志文町の辻村家に保管されていたガラス乾板写真392点と関連する資料群です。ガラス乾板は光に反応する薬剤をガラス板に塗って、現在の写真フィルムのように使用されていました。

6/6

◀実際のガラス乾板
厚さ約１ミリメートルのガラス板です。壊れやすく、温度や湿度の変化にも弱いため、現物は展示していません。

パネル展示中

主な撮影者である辻村直四郎さんは、明治25年に志文町へ入植して農場主となり、岩見沢町の農会長や町会議員を務め、地域の発展に尽力された方です。写真には、農場や家族、地域行事など当時の暮らしや地域の様子が鮮明に記録されています。

大正14年12月 堤防が壊れた際に被害状況の記録のため撮影された写真

昭和５年頃 脱穀作業の際に撮影された記念写真

昭和５年頃 動力脱穀機を使った脱穀作業の写真

岩見沢の無形文化財

砺波獅子舞　昭和47年11月3日指定

明治26年、富山県砺波地方出身者の団体が移住し、栗沢町砺波地区の開拓が始まりました。その時、ふるさとから伝わったのが〝砺波獅子舞〟です。明治39年砺波神社ができた時に初めて奉納されて以降、五穀豊穣や家内安全、祖先供養などの願いを込め、地域みんなで楽しむ行事として継承されてきました。なお、現在は活動を休止しています。

1/2

岩見沢雅楽会　昭和43年11月3日指定

大願町や金子町で継承されてきた雅楽会です。明治時代末期、北陸地方出身の雅楽に親しんだ人々が入植し、大正２年に前身となる同好会が結成されたのが始まりです。農閑期に集まって練習に励み、神社の例祭や寺院の法要など市内外の多くの行事に招かれて、演奏を行ってきました。なお、現在は活動を休止しています。

2/2

地域の人々によって守り伝えられてきた文化財。歴史や文化に触れることは、岩見沢の新しい一面を発見するきっかけになります。
ぜひ、一つ一つに秘められた物語をたどりながら、岩見沢の歴史とロマンに触れてみませんか。

無料〝文化の日〟郷土科学館無料開放

すべての方の入館料・プラネタリウム観覧料が無料になります。昔の道具に触れてみる体験やヨーヨー釣りなども。
日　程　11月３日㈷
時　間　午前９時30分～午後５時